

公共事業再評価対象事業 説明資料

平成28年11月2日
富山県 土木部

土木部の平成28年度再評価対象事業概要

○再評価対象事業数

	道路	河川	砂防	地すべり	急傾斜	合計
対象事業数	4	5	11	1	3	24
再評価	3	2	10 (5)	1	3	19 (5)
再々評価						
3回目以上	1 (1)	3 (2)	1			5 (3)
重点審議箇所	1	2	5	—	—	8

(国)471号 利智BP

地久子川
谷内川

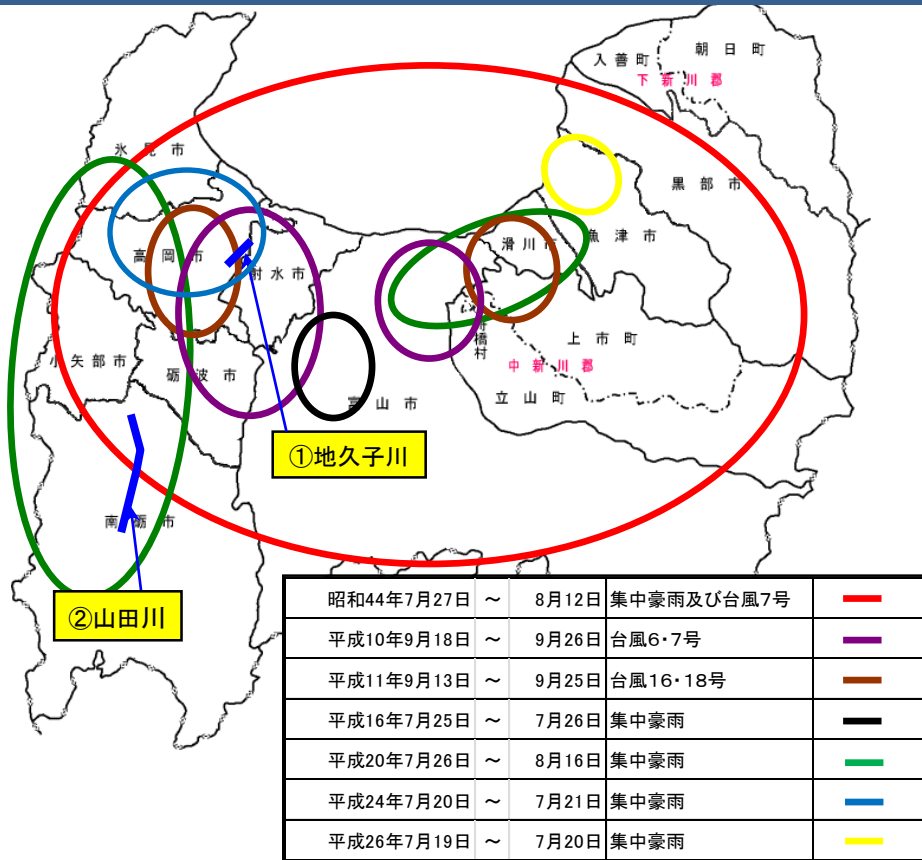
小矢部川水系五十里道重、打尾川、正谷庄川水系大谷、その他水系泊谷

()は重点審議箇所内数

第2回評価委員会(現地視察)



富山県の浸水被害

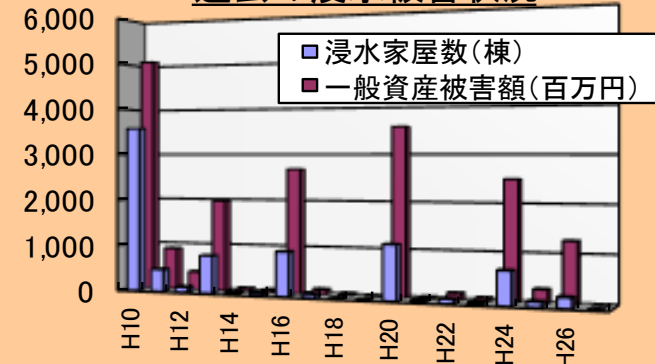


①地久子川(高岡市)



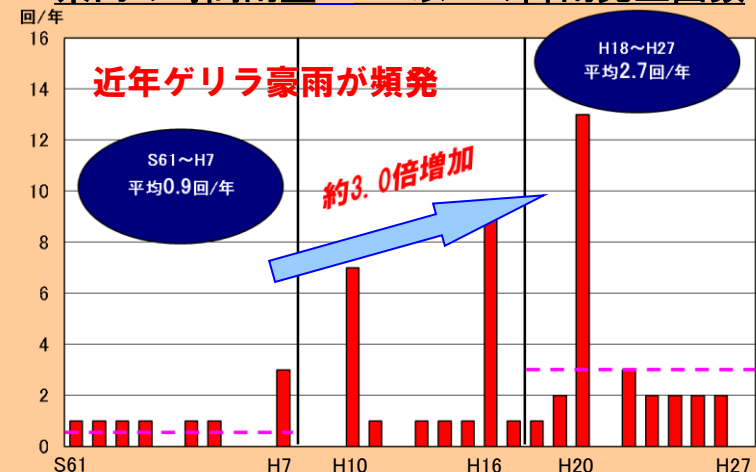
浸水被害状況:平成24年7月21日

過去の浸水被害状況



※H27年の一般資産被害額は集計中

県内の時間雨量50mm以上の降雨発生回数

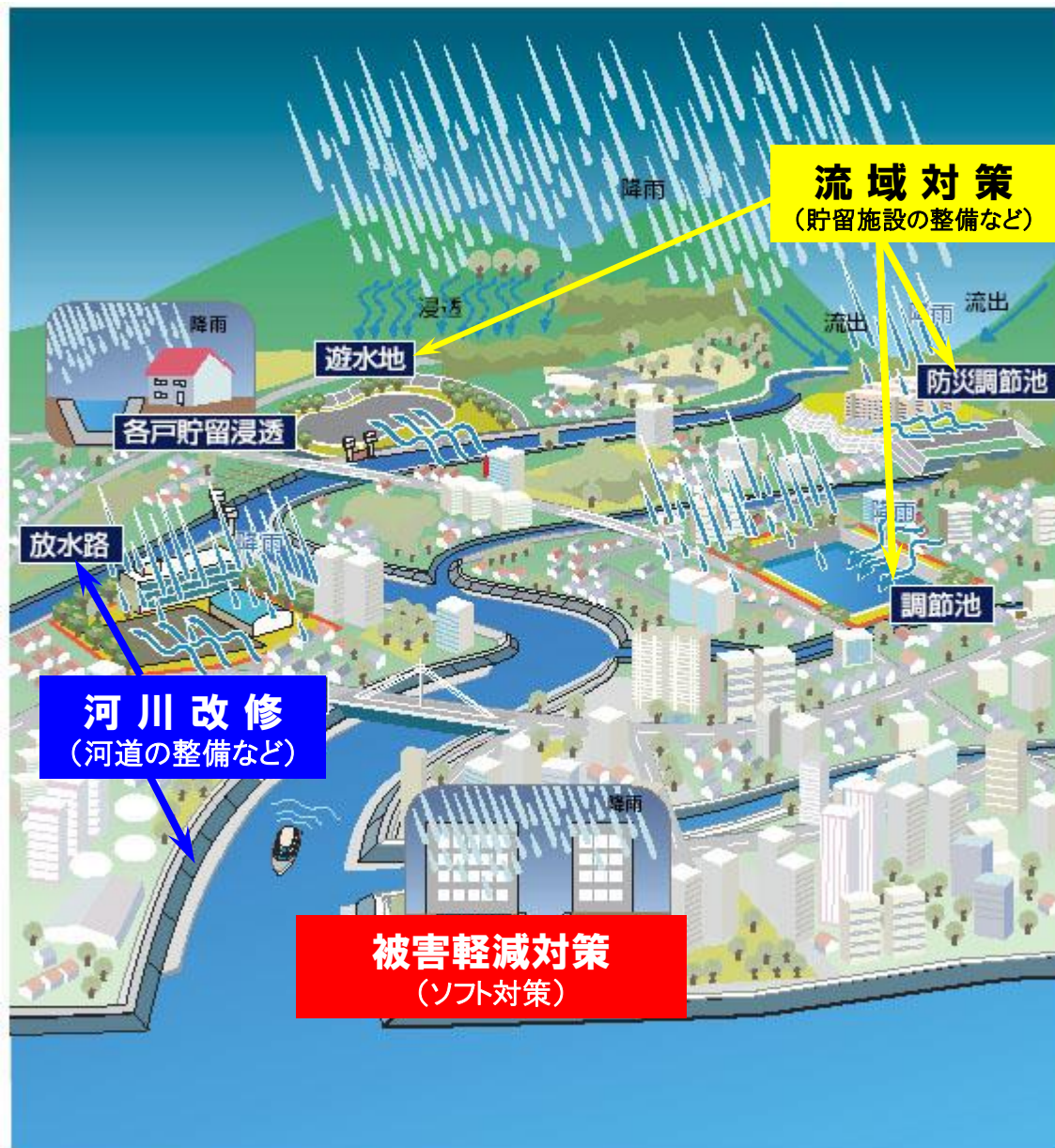


②山田川(南砺市(旧城端町))



<参考> H20.7.28の南砺市を襲った猛烈な豪雨
 小院瀬見(国交省観測所)で132mm/h
 城端ダム(富山県観測所)で112 mm/h

総合的な治水対策について



総合的な治水対策

河川改修

- ・河道の整備(築堤・浚渫など)
- ・放水路などの建設

流域対策

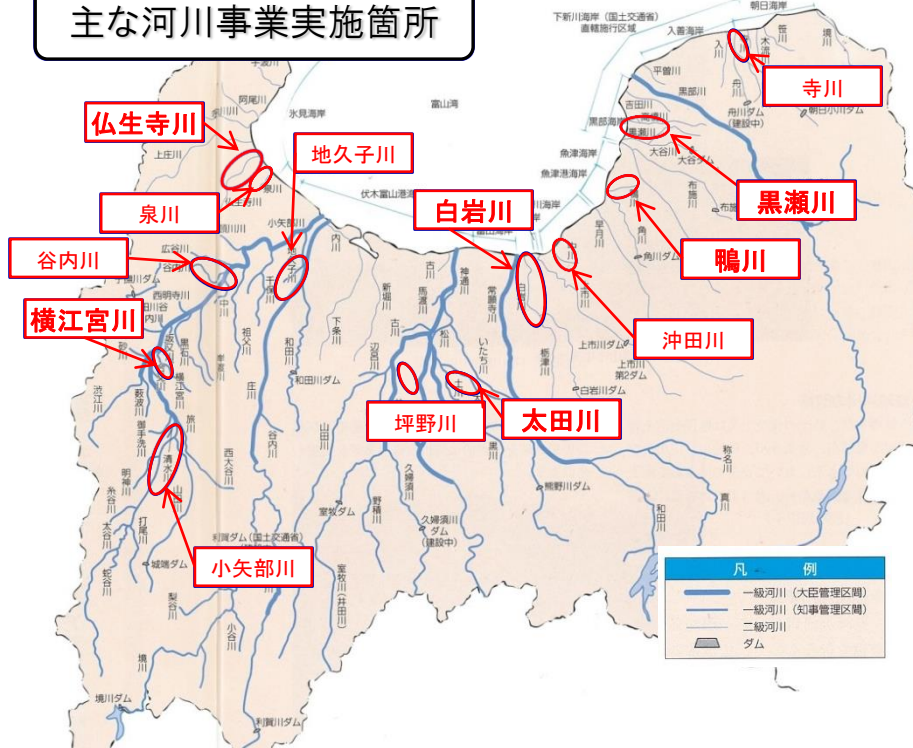
- ・雨水貯留浸透施設の設置
- ・遊水地の整備(農地貯留)

被害軽減対策

- ・緊急浸水対策計画策定
- ・浸水想定区域図及び洪水ハザードマップの作成
- ・河川水位や雨量情報の的確な提供

効果的な治水事業の実施

主な河川事業実施箇所



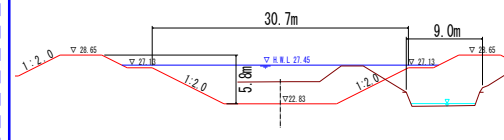
- ・近年の豪雨により、市街地等で浸水被害が発生した河川における重点整備
- ・過去に大きな浸水被害が発生した河川における計画的な整備

横江宮川

事業箇所: 小矢部市小神外
事業延長: 1,300m
事業期間: H24~
事業内容: 護岸工、橋梁工他



標準横断面図



太田川

事業箇所: 富山赤田外
事業延長: 2,990m
事業期間: S49~
事業内容: 護岸工、橋梁工他



仏生寺川

事業箇所: 氷見市園外
事業延長: 7,341m
事業期間: S43~
事業内容: 護岸工、橋梁工他



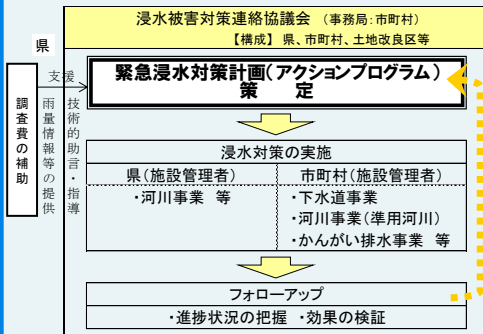
白岩川

事業箇所: 富山市水橋
事業延長: 6,800m
事業期間: S45~
事業内容: 護岸工、橋梁工他



緊急浸水対策

市町村が主体となり、河川の流域全体での総合的な浸水対策計画を策定。県が策定に係る調査費を補助。



○これまでの策定流域

年 度	市・流域	年 度	市・流域
平成22年度	氷見市泉川流域	平成26年度	富山市いたち川流域
平成23年度	魚津市鴨川流域		魚津市坊田川流域
	黒部市高橋川流域		滑川市中川流域
平成24年度	南砺市池川流域		黒部市黒瀬川流域
	高岡市地久子川流域	平成27年度	朝日町寺川流域
平成25年度	小矢部市横江宮川流域		

○浸水対策の例(氷見市泉川の場合)

目標	役割分担
	県市地元
・取水堰の撤去 ・堆積土砂の撤去 ・土のう等の配布 ・自治会による防災活動及び水田貯留の支援	・防災情報や避難情報等の提供 ・ため池活用の検討 ・水田貯留への協力
短期計画 <概ね5年以内>	・護岸工
長期計画 <概ね5年以上>	・河道拡幅 ・雨水浸透ます

鴨川

事業箇所: 魚津市湊町
事業延長: 2,160m
事業期間: H13~
事業内容: 放水路整備

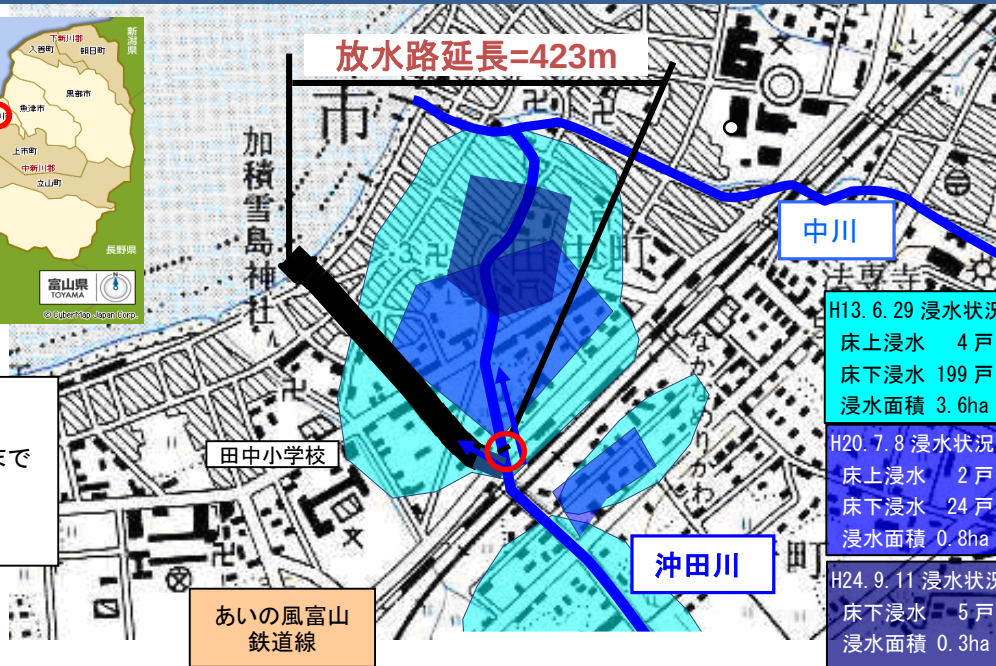
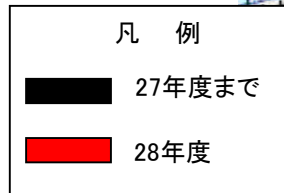


黒瀬川

事業箇所: 黒部市荒町外
事業延長: 5,024m
事業期間: S54~
事業内容: 護岸工、JR橋梁架替工他



沖田川河川改修事業（滑川市河端町外地内）



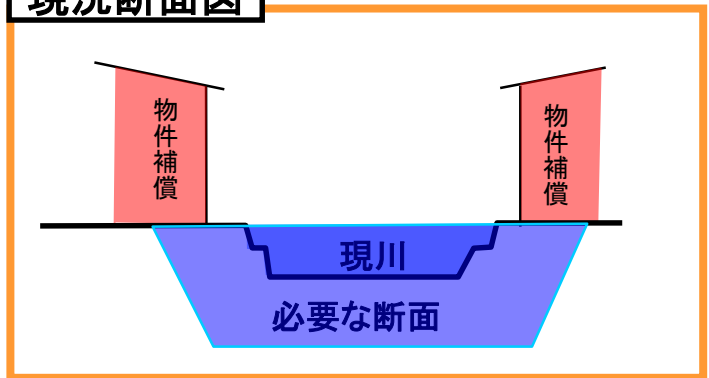
改修計画の概要

- ・計画流量 26m³/s
- ・計画規模 1/50

全体計画

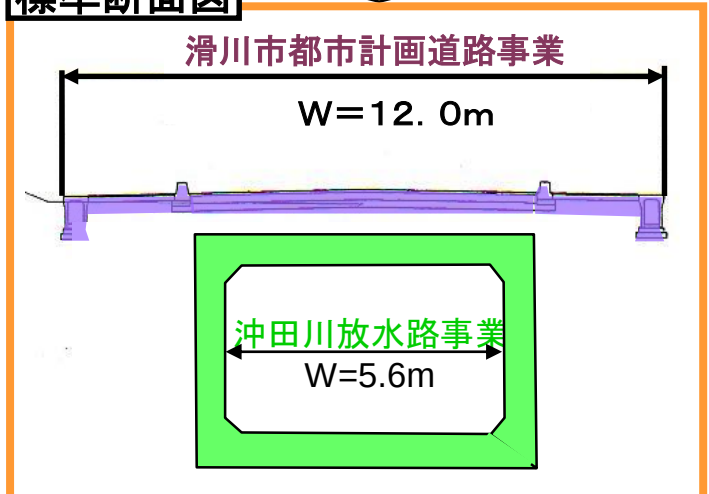
- ・事業内容 延長 L=423m(放水路)
- ・着手年度 平成14年度

現況断面図



放水路
整備
路

標準断面図



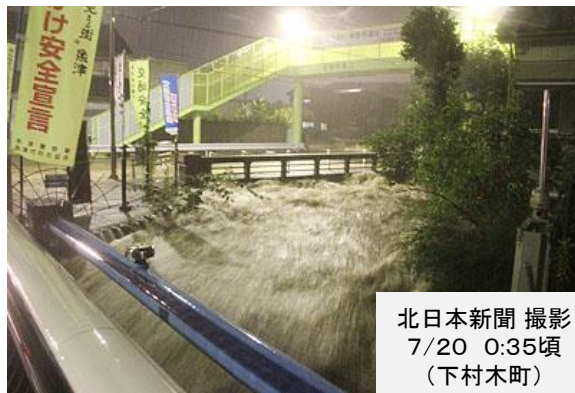
平常時



平成24年9月11日 浸水状況

災害未然防止対策(浚渫・伐木)

- ・ 近年、全国各地でゲリラ豪雨等による災害が頻発
⇒ H26年7月に魚津市などで局地的な集中豪雨により浸水被害等が発生したことを受け、**災害の発生を未然に防ぎ、災害の発生源対策や適時適切な維持管理に資する事業を行うため**、H26年9月補正予算にて**災害未然防止対策事業**を創設
- ・ H26年12月、浚渫・伐木について**5ヶ年の実施計画(H27～H31)**を策定



平成26年7月19日魚津市六郎丸地内で、観測史上最大の83mm(日最大1時間降水量22時54分～)を記録

多くの公共土木施設等が被災



河川内に土砂が堆積し、流下能力が低下



山腹斜面が崩壊し、東山神社が倒壊

未然防止対策

流下能力を高める河道の浚渫

対策前

対策後



栃津川(上市町若宮)

流下能力を高める河道の伐木



上市川(上市町森尻)

洪水浸水想定区域図の作成

水防法改正（H27年7月）に伴う洪水浸水想定区域図作成に関する改善事項

- ・前提となる降雨を、計画規模から、**想定し得る最大規模**に変更
- ・洪水時家屋倒壊危険ゾーンの設定
- ・浸水継続時間の算出※1
- ・地下で連続する施設を通じて浸水する地下街等も浸水想定区域の一部として指定※2

※1: 長時間にわたり浸水するおそれのある場合に限る

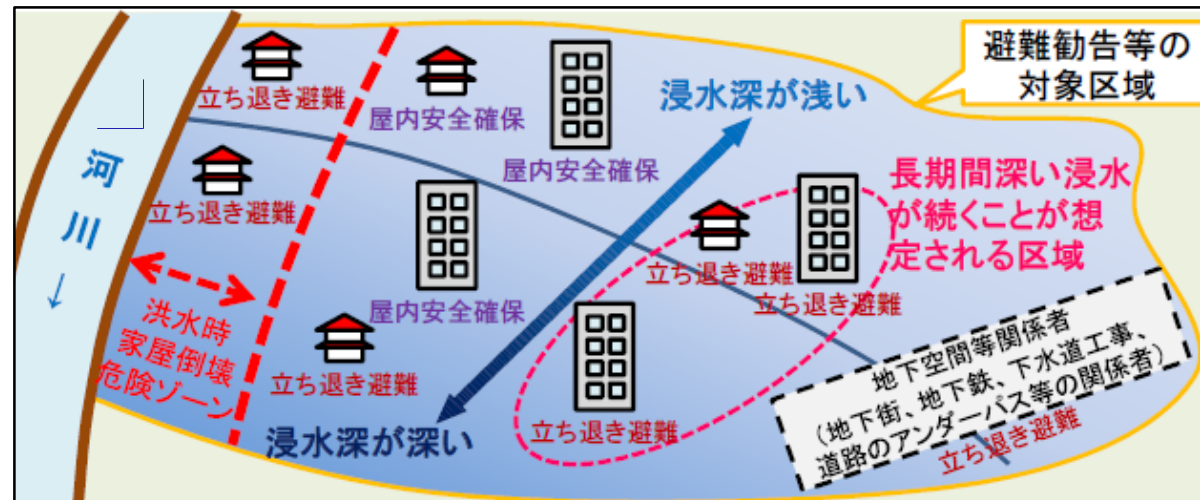
※2: 地上部分の浸水が想定されない地下街等であって、相当規模かつ当該地下街の利用者の円滑かつ迅速な避難の確保が必要なものに限る

洪水による浸水区域、浸水深とあわせて、洪水時家屋倒壊危険ゾーンや浸水継続時間も公表

これらの情報と想定浸水深から、洪水時に水平避難が必要な区域・垂直避難が可能な区域を判定

避難勧告の対象区域の絞り込みや、住民の避難判断に活用

⇒洪水ハザードマップの作成・公表(市町村)



避難勧告等の対象とする区域と避難行動について(避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン説明会資料(内閣府(防災担当)、H26)に加筆修正)

富山県の取り組み

県内41水位周知河川のうち、<H28>小矢部川など7河川で作成予定

河川情報システムの改修

(1) 統一河川情報システム(富山県版)の整備

○富山河川情報システムとは…

県下全域に設置された雨量計や河川の水位計等のデータを迅速に収集し、インターネット等により情報提供するシステム。

平成5年4月から運用開始

観測局数

雨量局：91局

水位局：72局

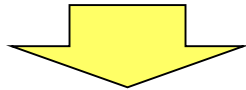
ダム局：18局



雨量局

○富山県河川情報システムの問題点

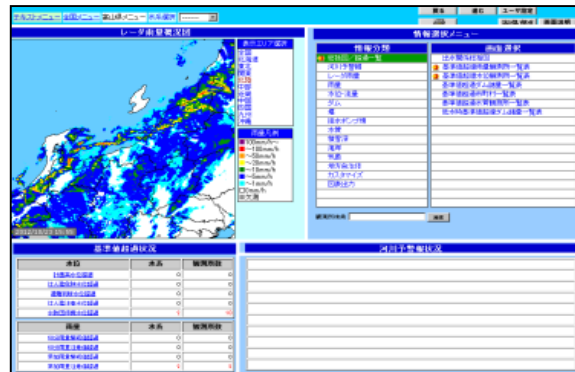
- ・専用端末上でしかシステムを利用できない。
- ・通信仕様がメーカー独自仕様である。
- ・システムの老朽化による機器障害が頻発。
- ・故障時の部品調達が困難。



統一河川情報システム(富山県版)の導入

○導入効果

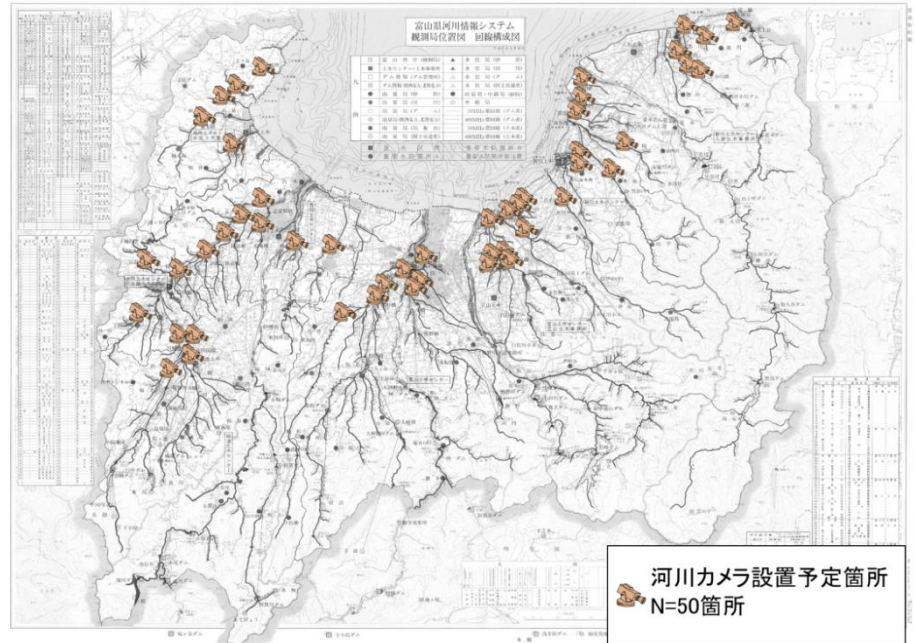
- ・各職員のパソコンで閲覧可能。
- ・システム運用コストの削減。
- ・通信仕様の統一化。
- ・豊富な情報を閲覧可能



【整備計画】

- 平成26年度～平成28年度 出先機関に統一河川情報システムを導入
- 平成28年度～ 河川監視カメラ等の整備

(2) 河川監視カメラ等の整備



河川カメラ設置予定箇所
N=50箇所

○県民及び水防関係者に河川の視覚情報の提供

○水位計故障時のバックアップ機能



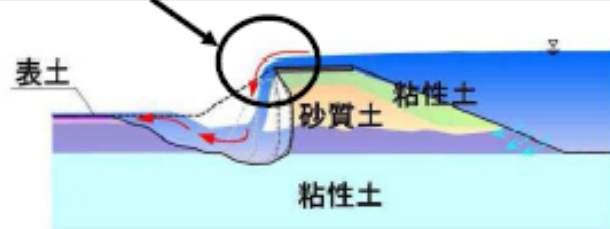
粘り強い構造の堤防等の整備

危機管理型ハード対策、いわゆる粘り強い構造の堤防等の整備

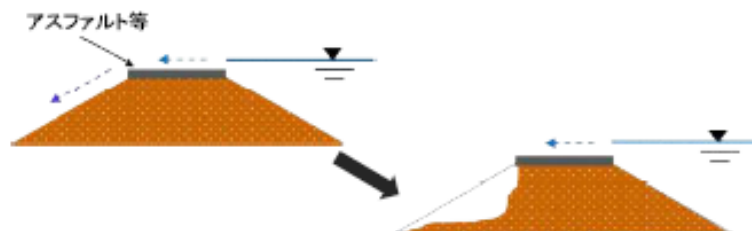
○氾濫リスクが高いにも関わらず、当面の間、上下流バランスの観点から堤防整備に至らない区間など約1,800kmについて、平成32年度を目途に粘り強い構造の堤防など危機管理型のハード対策を実施。

堤防天端の保護

- 堤防天端をアスファルト等で保護し、法肩部の崩壊の進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす

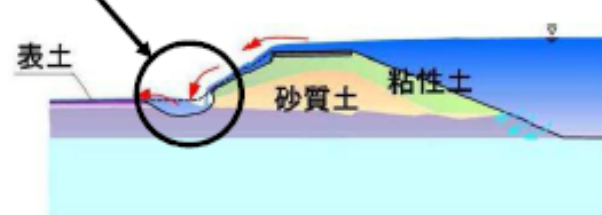


堤防天端をアスファルト等で保護した堤防では、ある程度の時間、アスファルト等が残っている。

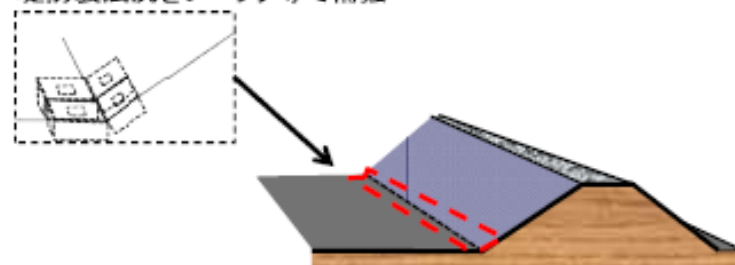


堤防裏法尻の補強

- 裏法尻をブロック等で補強し、深掘れの進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



堤防裏法尻をブロック等で補強



利賀ダム建設継続決定

国交省発表 29年度完成見通し

29年度完成見通し

水対策、工業用水供給を目的に、庄川支流の利賀川に計画された。総貯水容量は5100万立方メートル、総事業費は19億9千万円、建設期間は1970年度から1975年度までの6年度で、1975年度に完成する。建設費は、国交省が大半、大川ダム、遊覧園、恩川開発事業、栃木県、筑後川水系ダム群連携事業（福岡県）の3事業の繰越金で決定した。

（金）

国交省概算要求

利賀ダムに22億円
北陸新幹線 敦賀以西調査11億円
北日本新聞

国交通公社は、2017年度事業概算案を発表した。山形県では利根川・南砺市の建設費として、22億9,000万円（16年度当初20億0,000万円）を計上。建設継続の方針が基本となることを受け、ダムの着工に向け新たな工事を進める。整備新幹線越えについては、北陸新幹線秋田以西ルートを中心に調査費に8億円、同8億4,000万円を盛り込んだ。概算要求の総額は、16年度当初予算比増分の9兆6,680億円。

利根川に関して、来年度に「管掌工事」を実施する予定で、管掌手は、よみ書館で川の支障が出たとき、西部部で川の流れる様子を見て、「緊急24時間連絡事務所」現在行っている周辺道路の橋樑にも引き継ぎ取り組む。

本年度の管掌時期について、同僚水保課は「全体の計画を改めて見直す必要があり、まず決まっていかな」としている。

利根川の建設は「1993年に始まったが、民主党政権

時代の2009年に凍結された。本年度に凍結され、本年度に再開して支障が続いている。今年にはこの凍結期間の是非を判断する検査結果が気になり、今月25日に「建設継続」の方針が決まった。

整備新幹線では、北海道・岩手・九州・長門への建設費（国費）に16年度当初と同額の7,000億円を計上した。地盤処理や材料などを含む総事業費は6,300億円（16年度当初2,000億円）

要請額のうち、公共事業関係費は16億の成長率83%増加した。経費成長率は開業に伴い、約半分に削減される。開業後のうち、公共事業関係費は16億の成長率83%増加した。経費成長率は開業に伴い、約半分に削減される。開業後のうち、公共事業関係費は16億の成長率83%増加した。経費成長率は開業に伴い、約半分に削減される。

羽田空港の発着回数の増加により誘致路線の追加に16年度当初の倍の3,000万円、三大都市圏間の券

[illegible]

洪水氾濫防止区域内
人口：約25万6千人
資産：約4兆3,700億円

凡例

ダムサイト	洪水氾濫防止区域
湛水区域	不特定用水補給区域
集水区域	工業用水補給区域
市街地	

凡例

ダムサイト	湛水区域
集水区域	洪水氾濫防止区域
洪水氾濫防止区域	不特定用水補給区域
不特定用水補給区域	工業用水補給区域

- 形式：重力式コンクリートダム
- 規模：堤高112.0m、
堤頂長232.0m、
堤積570千m³、
総貯水容量31,100千m³
- 事業費：約1,150億円

凡 例	
ダムサイト	
湛水区域	
集水区域	
洪水氾濫防止区域	
不特定用水補給区域	
工業用水補給区域	
市街地	

凡 例	
ダムサイト	
湛水区域	
集水区域	
洪水氾濫防止区域	
不特定用水補給区域	
工業用水補給区域	

利賀ダム(完成予想図)